

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基盤としながら、生涯学習の視点に立って、児童の個性を生かし可能性を引き出す教育を推進し、夢や希望をもって持続可能な社会づくりを担い得る、知・徳・体・情操の調和のとれた豊かな人間性をもち、自ら学び、考え、行動する児童の育成を目指す。

【 かしこく やさしく がんばる 千寿の子 】

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	◎「千寿プライド」 Well-Being (幸せ) な学校 ・児童が学ぶことを楽しいと思える学校 ・教職員がやりがい、生きがいを感じる学校 ・保護者が安心して子どもをかよわせたい学校 ・地域に愛され、地域と共に成長する学校
○児童・生徒像	・「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」が育まれ、将来の社会を生き抜く力の基礎が育っている児童 ・規範意識があり、協働の精神をもち、他者を思いやることができる児童 ・自己実現に向かって、最後まであきらめず努力する児童 ・よりよい生活習慣と、健康・体力の保持増進に努める児童
○教師像	・安全、安心に配慮し、「子どもファースト」で児童一人一人を大切にしたい教育を推進する教師 ・研鑽に励み、児童が学びたい質の高い授業を工夫できる教師 ・人権感覚が高く、服務に対する厳正な態度をもち、法令を遵守する教師 ・同僚性を大切に、組織人として積極的に協力し成果をあげる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

「日本の未来を拓く千寿小」を基本理念に、次代を担う人材の育成に努める。全ては子どもの成長のため、「子どもファースト」を意識しながら、①ICTの活用を通して「指導の個別化」と「学習の個性化」を推進、②「質」と「実」を意識したSDGsに係る取組、③安全・安心に配慮しながら「コロナ・ブランク」を解消の3点を柱に教育活動の充実・改善に努めることができた。「学力向上アクションプラン」については、区調査（2～6年）で、通過率が国語 86.0%、算数 86.8%と、学校として設定した目標の水準には若干とどかなかったが、区の平均より4ポイント以上上回った。また、国調査（6年）は、平均正答率の対都平均で国語が+5P、算数が+6Pという結果であった。単元テストの結果から、知識及び技能については確実な定着がみられたが、思考力・表現力・判断力については、育成する必要がある。特に算数については、区の研究指定校として年間を通して組織的に授業改善に取り組み、児童の学力向上に力を入れる。「豊かな心の育成」については、昨年度の途中から「5つの㊟」を千寿小生活スタンダードとして学校生活全体で規範意識を育てた。また、人との直接的なふれあいを大事にした。今年度も協働学習、特別活動、異学年交流をさらに充実させ、思いやりの心を育てると共に、自己肯定感を高める。また、児童一人一人の悩みに応じた相談的機能を充実し、いじめ及び不登校の未然防止、早期発見、早期解消を図る。「体力向上・健康の保持増進」については、学校が設定した目標値を達成できたが、今後、目標設定値を高めることを目指し、全校で体育的な取り組みを充実させると共に、取り組み方の見直しを行っていく。また、齲歯の保有率は1.7%と大幅に改善されたが、規則正しい生活習慣（早寝・早起き・朝ごはん）の定着は十分ではない結果となった。引き続き児童・保護者への啓発と協力を求め規則正しい生活習慣の定着を図る。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R：令和				
		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9
1	学力向上アクションプラン	◎	◎	◎	◎	◎
2	豊かな心の育成	○	○	○	◎	◎
3	体力・運動能力の向上と健康の増進	◎	◎	○	○	○
4	開かれた教育課程の実行	△	○	○	○	○

5 令和7年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題			達成度 ◎○△●		
学習の個別最適化と協働性の向上		国語 88.0%、算数 88.0%		自己評価の際に記入					
B 目標実現に向けた取組み									
新規・継続	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●

1 新規	授業の充実	全学年 全教科 全領域	日々の 全授業・ 年間6 回の算 数の提 案授業	年間10回の校内研修 会を実施すると共に、年 間を通して、若手教員向 けの研修会を実施する。 算数の研究授業を各学 年1回は公開し、講師よ り指導を受ける。	・授業改善プ ランに則った 授業を実施で きたか授業観 察シートで確 認する。 ・年間2回、 児童へ授業に 関するアンケ ート調査を実 施する。	・管理職及び同 学年の教員が 授業観察を年 間2回以上行 う。観察シート の9割以上の 項目で○が付 く ・授業が分かる と回答する児 童90%以上、授 業が楽しいと 回答する児童 90%以上
2 継続・ 発展	「思考・判断 ベース」の授 業づくり	全学年 全教科・ 領域	各授業 補足的 な取組	言語活動の工夫・改善、 ICTの積極的な活用、 主体的・対話的な学習・ 活用型学習の充実、「問 い」の工夫、校内研究(算 数)の教育活動全体への フィードバック。	①6年国調査 (4月)の 平均正答率 ②単元テスト の「思考力・ 判断力・表現 力」の観点	①国・算ともに 都平均を上 回る ②国・社・算・ 理いずれも 平均 80%以上
3 継続・ 発展	基礎的な知 識・技能の確 実な定着	第1・2 学年： 国・算、 第3～5 学年： 国・社・ 算・理	各授業 補足的 な取組	SP表分析の活用(特段 の支援が必要な児童と定 着の難しい内容の明確 化)、授業及び補足的な取 組における指導の個別 化・多層化の推進、AI ドリルの効果的な活用	①単元テスト の平均達成 率80%以上 の児童 ②区調査問題 による定着 度確認(2 月)の通過 率 ③AIドリルの 活用状況	①国・社・算・ 理のいずれ も80%以上 ②国・算ともに 85%以上 ③全ての児童 が月平均で 250問AIド リルを活用・ 週1回以上 AIドリルを 活用した児 童の割合 80%以上

自己評価の際に記入

4 継続・発展	家庭学習の充実	宿題は全学年 自学自習は第3学年以上	家庭	①全学級での提出状況の記録 ②学力向上委員会による取組状況の確認	①宿題提出率 ②自学自習の定着率	①90%以上 ②90%以上	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block;"> 自己評価の際に記入 </div>
5 継続・発展	読書習慣の定着	全学年 全教科・領域 授業前・授業間・放課後・家庭	原則毎日	①図書館行事の計画的な実施（読書貯金、読書月間、読み聞かせ、特別貸出、読書感想文コンクール、調べる学習コンクール・図書館ボランティアとの連携、図書館支援員の活用・家庭読書の推進、休み時間の図書館活用の推奨、選書の工夫、蔵書の充実、異学年の読み聞かせ交流） ②年間目標読書量の提示 1年60冊、2年70冊、3年80冊、4年3000ページ5、6年4000ページ	①一週間に本を読む児童の割合 ②本を読むことが楽しいと感じている児童	①1週に3回以上、本を読む児童の割合80%以上 ②本を読むことが楽しいと感じている児童90%以上	
6 継続・発展	中学校との接続を意識した英語力の育成	第5、6学年英語	各授業補足的な取組	教科英語の趣旨を踏まえた4技能をバランスよく育む授業、個別支援の充実、パフォーマンステストの実施、他教科・領域と関連付けた学習	①チェックテスト（年間2回） ②区調査問題を活用した定着度確認（6年生2月）	①いずれも達成率80%以上の児童90% ②通過率90%	
7 継続・発展	ICTの効果的な利活用	全学年 全教科・領域	各授業補足的な取組	足立スタンダードに基づいた問題解決的な授業におけるICT機器の効果的な利活用。ICT機器の活用による個別指導・補足的学習・家庭学習・協働的な学習場面の充実。	①ICTの活用に対する児童の評価 ②AIドリル及びICT機器を計画的に活用する教員の割合	①問題を解決するためにICTを使うことができる児童90% ②ICTを毎日活用する教員100%	

重点的な取組事項－2		豊かな心の育成			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
全ての児童の明るい学校生活の実現	①「学校は楽しい」と感じている児童 95% ②「子供は、楽しく学校に通っている」と感じている保護者の 95%	自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
思いやりの心をもち、相手も自分も大切に	①いじめの早期発見、早期解消 ②全校での学校生活の改善に係る児童の主体的な取組を年2回以上 ③全学年で異年齢との交流を1回以上	①年間3回「いじめアンケート」の実施 ②年間2回「WEBQU」の効果的な活用 ③児童の自主的・主体的な取組の推進、幼保との交流、「いじめ防止・対処授業」の充実	自己評価の際に記入		
基本的な生活習慣を身に付け、きまりを守り礼儀正しく生活できる児童の育成	①「5つのあ」が定着した児童 85%以上 ・あいさつ ・あつまり ・あとかたづけ ・あたたかい言葉 ・あきらめない心	①代表委員会を中心とした児童の自主的な取組の充実、保護者・地域との連携 ②生活目標の達成率を数値化全校児童による挨拶運動	自己評価の際に記入		

重点的な取組事項－3		体力・運動能力の向上と健康の増進			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
習慣の定着と主体性の向上	体力テストで都平均以上の種目 40% 総合評価で AB 評価 30%以上、 DE 評価 35%以下	自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み					

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
多様な運動機会の場と内容の充実	①「運動が好き・楽しい」と感じている児童 95%以上	「体力向上推進プラン」に基づく継続的な取組と情報提供の徹底、「動きの洗練性を高める授業」「協力・協働の意義や重要性を実感できる授業」の工夫	自己評価の際に記入		
健康な生活習慣の確立	①早寝・早起き・朝ごはん・歯みがき・運動習慣の定着状況が90%以上 ②むし歯の保有者が10月の段階で7%以内・2月の段階で3%以内 ③1月測定時で肥満度20以上の児童が7%以下	生活実態調査の実施（年間2回）、養護教諭・栄養職員の専門性を生かした指導の実施、家庭・関係機関と連携しての「むし歯ゼロ」の推進			

重点的な取組事項－4		開かれた教育課程の実行			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
学校の教育活動の可視化・保護者、地域と連携した教育活動の充実	①学校は、教育活動の様子や情報を伝えている90%以上 ②学校は、子どもの多様な学ぶ機会を大切にしている90%以上	自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

<p>情報発信の充実</p>	<p>①学校だより（学年だより）を年間11回発行する。 ②校長ブログ、学校ブログを年間計190回以上更新する。 ③保護者や地域の方が授業や学校行事を参観する機会を設けている90%以上</p>	<p>①保護者会を年間2回行い、個人面談を7月と12月に実施する。 ②学校行事の後に保護者にアンケートを取り、充実した教育活動の一助とする。 ③授業公開日、学校行事を積極的に公開し、H&Sにより、情報の共有を図る。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>自己評価の際に記入</p> </div>
<p>外部人材、地域教材を活用した授業を実施</p>	<p>①全学年で、外部講師を招いたり、地域の教材を利用したりした授業を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・縄跳び名人 ・農家の人 ・パラスポーツ ・昔遊び ・健康教育 ・キャリア教育 ・プログラミング授業 ・郷土資料館の活用 ・PTAとの連携 	

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）

自己評価の際に記入します。

経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。